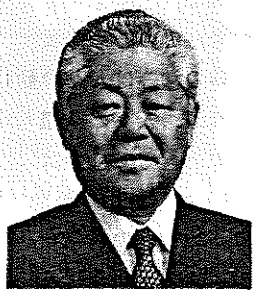
栃木県中学校長会報

あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立一条中学校長
柳田　明

先年度末人事異動によって、45名の中学校長方を送り出し、新たに46名の校長方をお迎えしました。本年度私達171名は、先輩方の築いて来られたこの会の伝統と業績を引継ぎ、更に発展させるべき責務を負うことになり、私達の責任の重大さを痛感するところです。

本年は新制中学校発足40周年に当るわけでして、この感を特に強く持つものです。

ところが現下の中学校教育をとりまく諸問題、これに対する指摘と課題は実に多い現状です。

全国的に見る時、校内暴力の嵐が過ぎ去ったと思うと、いじめ、自殺、登校拒否等と形を変えてモグラたたきのように飛び出しては子どもたちを襲い、残念ながら、教育荒廃などという言葉まで出ている現状です。

本県における状況はどうかとなると、中学校関係で、先年度では、第一に生命に係わる問題行動について、自殺は前年より1件増えて4件もあり、傷害事件が1件ありました。次は窃盗、恐喝、この恐喝にしても、町の中での恐喝や、特殊警棒を使っておどす等、悪質化してきたということです。更に、登校拒否は増加の傾向にあり、いじめはやや減少のようです。校内暴力は悪質ではなくなったが、件数は横ばい状態だそうです。喫煙問題にしても、今は普通の子がすうという傾向だとのことです。このように、まだまだ解決すべき問題は山積しております。

私達は、生命尊重の教育の推進、教育相談の充実、指導体制の確立、基本的生活習慣形成のための指導、学校と家庭・地域社会との連携の強化等を推し進めていかなければなりません。そして、教育正常県栃木の名にふさわしく、本来の教育を打ち立てねばならないのであります。

さて、本会の活動の一端ですが、前年度には、全国的な教育改革の声の高まりや、臨教審第2次答申を受けて、教育改革検討特別委員会を発足させました。検討課題を「本県の現状から活性化を図るにはどうしたらよいか」として、教育目標、教育内容、教師の資質向上、学校管理運営の4つの事項について"現状における問題点と改善策"を探って来ました。本年度、メンバーの交替はありましたが、引続き活動を続けることになりました。特に関係委員の方々よろしくお願いします。

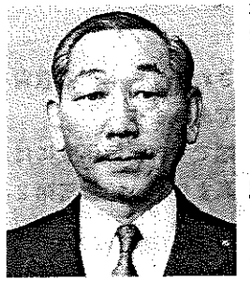
話は変りますが、アメリカにおける成人教育や人間関係研究の先覚者デール・カーネギー氏は、『人を動かす』という著書の中で、人を動かす原理として"盗人にも五分の理を認めること""重要感を持たせること""人の立場に身を置くこと"の3つを挙げています。私達校長が学校経営に当る場合に大いに参考になることだと存じます。

「思いやり　やさしさときびしさ　熱慮と決断
いばってもいけないし、いたずらにへりくだってもいけない」

これは私なりに描く校長像です。校長というのは、部下を生かして使うことが肝要であることは申すまでもありません。教師が生き生きと活動し、それぞれの職務を遂行することによって、学校の活性化が図られるものと私は考えます。そのために、この姿勢で学校経営に臨むことが大切なのではないかと考えるのです。

栃木県中学校長会の校長各位ともども本県中学校教育の活性化、充実振興のために、それぞれの立場において勉強することを誓い合い、且つ、63年10月の全日中栃木大会を成功させるために、一致協力していくことを確認し合いまして、ごあいさつと致します。よろしくお願い申し上げます。

ごあいさつにかえて



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立陽東中学校長
小松義晴

各地区協議員の皆様のご推薦をいただき、本年度副会長の重責を担うことになりました。馬齢を重ねるのみの浅学非才者ではございますが、県中学校長会の運営方針を体しまして一生懸命努力する覚悟でおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この8月には臨教審の3年間にわたる審議のしめくくり総括としての最終答申が示され「生涯学習体系への移行」「初等中等教育の改革」「高等教育機関の組織、運営の改革」「スポーツと教育」「時代の変化に対応するための改革」「教育費、教育財政の在り方」等全体について社会的に各界で取り上げられ、特に教育界においては大きな論議を呼ぶものと思われます。教育に携わる者としては、答申の内容、時代の要求をどのようにして現場の教育の中に反映させていったらよいか、という様々な問題が生じ、大きな課題となるに違いないと思います。それらはさしたる問題ではない、天下の大綱は示されたが児童生徒と直接ふれ合う教育現場ではそう簡単に教育内容は変わるべきものでないし、また、変えるべきものでもないと割り切っていられる問題ではないと考えるのが至当かと思います。やはり、我々が協働一致して真剣に社会の変化によって来たるところや、近い将来に社会の一員として活躍する児童生徒たちに、何を教え、何を考えさせ、何を身につけさせてやったらよいかを論じ会い、よきコンセンサスを持って校長会として自信に満ちた歩みが出来るようにすることが肝要なことと思われます。これらの作業には、一堂に会して討議し合う場合もあるでしょうが、主軸となるものは県内171校の中学校でそれぞれに実践研究されている事例を持ち寄って発表し合い、研修し合う中での向上を図る方法が一番かと思われます。その場合有識者のアドバイスを受けながら考え方の方向を探るのも大切なあり方として採り上げられるべきものだろうと考えます。

ともかく、「世の中変わったなあ」と感嘆して毎日の出来事を眺め、地域的な自己流をもってその変化に対応しているのが今日このごろの我々の姿ではないでしょうか。「時の営みは人々の動きを変えていく。動きが変われば、人々の意識も変わる。人々の構成は変わらずともその社会は以前のそれではない。そして、忘れてはならないことは、変化する社会の中には「教育」の対象である子どもたちが常に存在しているということだ。（日本教育新聞社説12／22）」が教示しているとおり、教育の対象である子どもたちがそこにいることを忘れた教育はないし、子どもたちの将来が我々の手の差し伸べ方一つで大きく変わり、社会の適者となれず落ちこぼしてしまうようなことがあっては申し訳ないことであります。「心豊かな人間」を育成することは現代社会の実情から読みとっても教育に課せられた重大な一面であることは間違いありません。しかし、画一的なパターンに同調して生きることが要請される今という時代には、古典的な自己実現型の人間は不適応にならざるを得ないことを思えば、青雲の志を抱いて、若い時から強烈な自己主張をして個性的に生きていくというだけの教育では「心豊かな人間」の育成は不十分であるということになります。自己実現の達成のためには、やはり体制に同調しながら生きて行くことの大切さ、また、その我慢の中で精神的に強く生き抜く心がけが自分を作りあげていくことなどを懇切に教えてやらねばならないのではないかと思います。

酷暑の折、脳裏をかすめるたわごとを並べてしまいました失礼をお詫びしながら、新任のごあいさつにかえさせていただきます。

現状における進路指導

栃木県中学校長会副会長
河内町立古里中学校長
新澤彦治

学校教育のあり方をめぐって、臨時教育審議会をはじめとして、各方面からそれぞれの立場で論議がかわされている。特に、多くの課題を抱えている中学校教育については、中央教育審議会が教育内容等小委員会審議経過報告において、今後特に重視されなければならない視点の一つに、「個性と創造性の伸長」をあげ、将来社会人として必要な基礎的な知識、技能を身につけさせるとともに、一人一人の能力、適性、興味関心等に一層の配慮を加え、それぞれの持つ個性を伸長させることが必要であるとし、次いで、臨時教育審議会第二次答申において「生涯学習体系化」の中で、個性や適性に応じた進路選択を行い、また、正して勤労観、職業観、職業生活に不可欠な基礎的知識、技能を修得させ、将来のよき職業人を育成する必要があることを指摘している。さらに、教育課程の基準の改善の基本方向の一つとして、学級指導を通じ、生き方や人生について考えさせる時間を確保するなどの方策を考えるべきであると強調している。

戦後40年間の教育人口の量的増大は教育史上かつて例を見ない特異現象であり、文部省の調査によれば、高等学校への進学率は昭和25年度42.5％であったのが、94％となり、今や高等学校教育は、一部の適格者のための教育から国民的な教育へと変容していることは周知のとおりである。一面、よろこばしい現象ではあるが、反面、多くの教育上の諸問題を引き起こしている。受験競争の中では生徒が自己中心主義となり、他人への思いやりの心がなくなりがちになり、知育偏重の画一的教育のもと、偏差値により選別される生徒が、非行や怠学に陥りやすいことは多くの事例が示している。また、最近、新聞紙上に発表されたとおり、無目的、不本意進学と学校不適応からの高等学校中途退学者の増加等、教育や進路指導にかかわる問題が山積みしている実情である。このような現状の中で、中学校における進路指導が果たす役割はますます大きく、特に生徒一人一人の個性を重視し、一人一人に主体的進路選択能力を育てる進路学習の充実を図ることは、中学校教育の重要な教育課題であるといえる。

進路指導上の諸問題として

(1) 生徒は中学校の段階において自己の将来の進路に関して目的意識をもっていない。
(2) 生徒に職業に関する体験的な機会が少ない。
(3) 学校における学習も学力重点主義が進められ、将来への希望を考えさせる機会を少なくしている。
(4) 進路指導が第三学年における進路決定に関する指導と思われている面もある。
(5) 進路に関する保護者への啓発が3か年を通じて適切になされていない。

などがあげられる。

生徒にとって将来の進路の世界とは、生徒が実社会の中に入っていくことであるが、その社会が現在、非常に変化の激しい状態におかれている。学校教育は社会の変化と無関係ではあり得ないわけで、その変化を十分に踏まえた進路指導の展開がなされなければならないところに難しさがあるともいえよう。

学校における進路指導の推進には、これが絶対という方法はないであろう。一人一人の生徒の実態や学校の状況などを踏まえて展開されなければならない。それだけに、進路指導の推進において最も大切なものは「教師の熱意」であるとも言われている。かけがえのない生徒一人一人の将来の生き方に関する指導である。ここで、もう一度これからの進路指導のあり方について見つめ直し、改善充実につとめなければならないと考える。

昭和62年度各専門部・特別委員会の活動計画

◪ 調　査　部

1. 役員選出、事業計画について

昭和62年6月5日（金）宇都宮市立一条中学校で部会を開き、次のとおり決定した。

(1) 役員

部　長　　池田　　久（宇・泉が丘中）
副部長　　新澤　彦治（河・古里中）
〃　　加藤　　登（塩・北高根沢中）

(2) 事業計画

① 中学校教育に関する調査の実施。
（全日中調査部との共同事業）
② 県中学校長会ならびに各専門部会活動に必要な調査と資料の提供。
③ 他県中学校長会、教育諸団体との連携と資料の交換。
④ 調査結果や収集資料の配布。

2. 中学校教育に関する調査について

去る5月、各校悉皆による調査を実施し、その集計資料と県教育委員会からの資料により、広範多項目にわたる調査票の記入を完了し、6月20日必着で全日中事務局に送付した。

この調査に当って、県教育委員会の義務教育課、高校教育課、保健体育課の各先生方に多大な御協力をいただいたこと、また、各中学校の校長の協力、特に各地区専門部員の調査集計等のお骨折りに対し厚く感謝いたします。

なお、この調査の初回（昭和48年度）ならびに前年度と本年度との比較を行い、参考に供します。

比較項目		昭48.4.1	昭61.5.1	昭62.5.1
給料	初任給（大学卒）	51,900円	133,200円	136,400円
	勤続10年	78,400円	206,700円	211,500円
	勤続20年	111,800円	309,600円	316,800円
	勤続36年（校長）	146,400円	404,700円	414,200円
旅費（1人当たり、年間）		24,100円	66,300円	66,300円
校長退職年令（勧奨）		58才	60才	60才
生徒数		78,836人	95,543人	96,569人
教員数（校長、教頭、教諭、養護教諭等）		3,588人	4,346人	4,583人

◪ 研　修　部

部　長　　安川　一男　（宇・豊郷中）
副部長　　手塚　勝久　（那・三島中）
〃　　塚原規矩郎　（小・桑　中）

1. 6月5日、一条中にて専門部会を開き、本年度の組織及び計画を協議し、次のように決定した。

(1) 役員選出　部長・副部長（上記の通り）
(2) 県中学校長研究大会の企画
(3) 県中学校長会研究集録の編集

2. 7月9日、研修部会開催　教育会館にて

協議事項

○第9回　県中学校長会研究大会について
期日　9月4日(金)
会場　宇都宮市立一条中学校
研究主題
「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」

○趣旨

今日の世界情勢の中で、日本人の果たす役割と責任は、今後ますます増大していくことが予測される。このような時こそ21世紀を展望し、豊かな文化の創造と民主国家・社会の発展に努め、進んで国際社会に貢献出来る日本人を育成することが重要課題である。

よって学校経営の責任者である校長は、これまでの研究成果を踏まえ、かつ教育改革の動向をも考慮しながら研究主題に果敢に取り組み、中学校教育の一層の充実発展を期するものとする。

3. 12月12日、研修部会開催　教育会館

○研究集録の編集企画
○今年度の反省と次年度の研究主題について協議

4. 2月19日

○研究集録（第10集）の発行

◪ 編　集　部

6月5日宇都宮市立一条中学校において、第1回の編集部会を開きました。話し合いの結果役員は次のようになりました。

部　長　　大関　三良　（宇・陽西中）
副部長　　星野　享央　（河・田原中）
〃　　有澤　弘一　（栃・栃木東中）

なお62年度の活動は次の期日をめやすに会報の発行を中心とした活動を展開することになりました。

第2回目の部会（6月27日）　於・陽西中
第67号の内容検討・原稿依頼者の決定・発行予定は9月上旬とする。

第3回目の部会（11日21日）　於・陽西中
第68号の内容検討・原稿依頼者の決定・発行予定は1月下旬とする。

本年度も前年度にならい2回の発行を予定しています。内容についても前年度にならっていますが、昭和63年には全日中栃木大会が開催されますのでその方面の情報もできるだけ提供したいと思っています。なお内容紙面等についてご希望がありましたらお知らせ下さい。会員の皆さんの意見を反映したものにしていきたいと思いますのでご協力方お願いいたします。

◪ 職員対策部

昭和62年6月5日（金）、宇都宮市立一条中学校で部会を開き、本年度と組織及び計画を協議し、次のように決定した。

(1) 役員選出

部　長　　大竹　幸雄　（宇・陽南中）
副部長　　栗原　　晃　（河・上河内中）
〃　　螺良　郁郎　（芳・長沼中）

(2) 本年度の計画

11月下旬、宇都宮市内中学校で研修会開催

(3) 研修の内容（アンケート調査及び講話）

① 昭和62年度、人事院の給与勧告
・改訂の内容、給料表、諸手当など
② 本県教職員の実態と課題
・教職員（職名別）数
・年令別教員構成　・男女別教員構成
・勤務年数別の教員構成
・出身学校別の教員構成
・中学校における担当教科・週授業時数等
・中学校における学校経営上の問題点
③ 退職と退職後の課題
(ア) 医療制度
・任意継続組合員制度
・国民健康保険制度
・継続療養
・短期給付
(イ) 退職手当
・退職手当の種類
・継続期間の計算
・退職手当の計算
・各種課税等
(ウ)
・年金の計算と支給方法
・厚生年金との調整

◪ 進路対策部

1. 部　長　　關　　平　（宇・鬼怒中）
副部長　　佐藤太袈夫　（上・鹿沼東中）
〃　　仲山　貞夫　（南那・烏山中）

2. 事業計画

(1) 高校入試の改善についての話し合い
7月、　10月　の予定
(2) アンケートの実施
(3) その他、必要なことがら。

3. 課　題

進路対策部会では、例年「高校入試の改善と中学校の進路指導」をテーマに研究を続けているが、中学校長の悩みの一つは、ここ数年来、いわゆる第二ベビーブームのピークにさしかかり、中学校卒業生中進学希望者の何%かが、公私立高とも入学できず、いわゆる変型中学浪人が出ていることである。

そしてそれらの救済策として、県内各高校などで普通科の学級増や学科再編による定数増などの対策を講じていただいており誠に有難いことだと思っているが、63年３月には更に1,200名以上の中卒生が見込まれ、昨年以上の変型中学浪人が予想される現状を、学区内の高校は勿論県内私立各高校長に充分説明し、一人でも多くの生徒の入学について、ご尽力を賜りたい。

しかし、生徒数の動向は64年３月に約500名の増加見込みのあとは毎年減少が予想されているので、高校側もかなり厳しい現実に立たされていることも、承知する必要がある。

もう一つ、61年度、大きな動揺を与えた公立高校の入試期日については、直接動機となった大学入試そのものが大きくゆれ動いておる状況の中では高校側からも大巾変更の線は出ず、ほぼ62年３月なみとなる見込みであるが、今度だけの話で根本的には改善の見通しは立っていないことも付記しておきたい。（文責　關　平）

◇ 修学旅行部

部　長　　齊藤　　操　（宇・国本中）
副部長　　小林　理一　（小山三中）
〃　　時田　　登　（足利二中）

資質を養う修学旅行

1. 修学旅行委員会のはたらき

中学校における修学旅行も、教育改革やＪＲ発足後の新しい時代の流れに対応するため各校独自の創意工夫による計画にもとずき実践され一段と内容も充実発展して来ました。教育・経済・安全を目標とし関東地区修学旅行委員会（栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉）を組織し今年で四半世紀を迎えるこの間行政（文部省・運輸省）、寺社等の諸関係機関との接衝を続けて来ました。

2. 修学旅行改善のための理論と実践

指導要領に示されている修学旅行のあり方を求めて、関東修学旅行委員会では毎年研究集会を各県輪番制で行なわれています。62年度は63年１月20日埼玉県において開催の予定です。生徒の自主性を育てることの一考察として、グループ行動による見学や修学旅行の内容検討とその試みが発表されています。

3　輸送計画について

昭和64年度の新幹線利用による関西・東北方面の申し込みがありました。来る９月30日関修委員会で輸送の割りつけが行なわれ11月５日各県別各校の日取りが栃木県を当番として検討され決定する予定です。また、63年３月より東海道新幹線に富士、掛川、三河の仮称三駅の開業、スピードアップに伴う所要時間の変更、特にＡ、Ｂに復路について時間帯が繰り上がる予定です。なお、東北新幹線については、大幅な改正はない見込です。

◇ 福利厚生部

昭和62年６月５日の部会において、本年度の役員並びに活動計画を次のように決定した。

1. 役員

部　長　　小松　義晴　（宇・陽東中）
副部長　　岡田　　弘　（河・河内中）
〃　　木下　和巳　（那・西那須野中）

2. 活動計画

(1) 生徒手帳編集会議
　8月29日(土)　10：00～　於県教育会館

(2) 「中学生の安全」編集会議
　10月17日(土)　10：00～　於県教育会館

(3) 退職年金・手当及び退職後の医療制度等についての研修会
　11月下旬実施予定　（講師未定）
　＜職員対策部と共催の活動＞

(4) 道徳資料「中学生の新しい道」推せん会
　1月30日(土)　10：00～　於県教育会館
　本年度の反省と次年度の福利厚生に対する意見交換

◇ 生徒指導特別委員会

1. 研究テーマ

校則（生徒心得）の実態とそのあり方(仮称)

2. テーマ設定の趣旨とねらい

最近、「校則は細か過ぎ、厳し過ぎる」「いや厳しくしなければ、全体の秩序がそこからくずれてくる。非行の防止にはぜひ必要だ」などの校則をめぐる論議が盛んになってきている。そこで、この研究をとおして、県内各中学の校則が、どのような手順で作成され、どのような校則があるか、また、校則に対して、生徒、保護者、教師がどのような意識を持っているかなどの実態を明らかにし、望ましい校則づくりの方向を示すことにより、よりよい生徒指導に役立てることを目的とした。

3. 研究のすすめ方

本研究は２か年継続することにし、次の方法によってすすめる。

○１年次（昭和62年度）
・校則作成の手順
・校則の内容
⇨県内各中学校にアンケート調査を依頼

○２年次（昭和63年度）
・校則に対する生徒・保護者・教師の意識
⇨抽出によるアンケート調査
・望ましい校則及びその作成の手順
⇨事例

4. １年次の研究日程の概要

６月５日(金)　役員選出　年間行事作成　（宇・一条中）
６月29日(月)　研究テーマの決定(県教育会館)
９月　アンケート作成
10月　アンケートの集計
12月　アンケートのまとめ

5. 委員

			下	老沼藤男(石橋中)
長	宇	下里信弘(瑞穂野中)	塩	吉田幾夫(船生中)
副	河	鈴木　元(南河内中)	那	野崎兼太郎(日新中)
	上	宮本昭尚(東原中)	南那	塚原宣夫(荒川中)
副	芳	宮沢　功(中村中)	佐	河田嘉一(佐野北中)
	栃	江面幸雄(皆川中)	安	船田　敦(葛生中)
	小	大門雅典(小山二中)	足	菊地治夫(足利三中)

◇ 教育改革特別委員会

1. ６月５日、一条中にて委員会開催

(1) 役員選出

委員長　　阿部　　豊　（宇・旭中）
副委員長　　吉成　達夫　（塩・片岡中）
〃　　茂呂　保雄　（足・北中）

(2) 事業計画

・61年度委員会でまとめた研究資料を各委員に配布する。
・事業計画推進について協議する。
　第２回委員会を７月28日（火）とする。
　以後９月と12月に１回ずつ委員会を開催する。

2. ７月28日、一条中にて委員会開催

事業計画の細部について協議する。

(1) 委員会は61年度から規約に基ずいて設置されたもので、役割や使命について検討。
(2) 61年度の本委員会の活動の状況について再確認する。
(3) 62年度の検討の進め方について協議する。
・検討の基本的方向は、今後の臨時教育審議会の答申等の動向や、前年度もたれた委員会の検討の取りくみをふまえて、検討を深めることとする。
・検討の領域を、(1) 教育目標・教育内容 (2) 教師の資質向上、(3) 学校管理運営の３つとし、それぞれの部会を設置する。
・各領域の検討の骨子は、(1) 教育改革の概要、(2) 現状の問題点、(3) 改革案の構成とする。
・委員を３つの部会に分け、９月中に検討内容について研究協議する。
・12月17日（木）、旭中において委員会を開催する。（各部会で検討したものを提案、本委員会としての検討成果の資料としてまとめる。）

関ブロ中学校長会山梨大会に参加して

事務局次長　磯野 隆夫

6月10・11・12日と四方山に囲まれ自然環境に恵まれた緑と水の豊かな甲府市県民文化大ホールにおいて大会がもたれ、全国から約1,100余名の会員の方が参加した。

以下は大会に参加しての概要である。

全体会協議

21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育の創造　―― 生涯教育の理念にたつ教育の推進 ――

「研究の視点」自己教育力の育成を図る教育実践

提案　山梨・竜王・竜王中学校長

自己教育力の育成には三つの柱があることを提案された。変容を続ける社会に対応し、社会に貢献する人の教育は、生涯学び続ける学習体系への移行が迫られるとして、第1は、「まずもって、学習への意欲」第2は、「学習の仕方の習得」第3は、「これからの変化の激しい社会における、生き方の問題にかかわるもの」であると指摘された。

分科会

第1分科会から第9分科会まであったが、筆者は第4分科会「自己実現を目指す進路指導」に出席した。

提案　東京都公立中学校の進路指導の現状を探り考える　東京・久留米・下里中学校長

学校長・進路指導主事・一般教師の現状把握がなされ、進路指導全体からの課題として、(1) 低学力と進学中心の悩み (2) 保護者との考え方・不一致 (3) 諸機関との情報交流 (4) 教師自身が生涯教育の視野に立って生徒の自己実現を援助していく (5) 小中高の関連を強める進路指導はそのまま生涯学習の過程であるとしている。

●本県から約68名の会員が参加して全体会・分科会等において、21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育の創造の研究協議題のもと、熱心に研修を行ない今後の学校経営にたいへん参考になった。また第9分科会では、栃木県を代表して真岡・大内中学校長根本勇先生が、学校経営基本計画作成段階における校長の指導性と学校の活性化について研究提案を行なった。

退職にあたって

前栃木県中学校長会長　飯野　昭

皆さんお元気ですか。この夏は、酷暑、猛暑の文字通りの暑さが続きましたが、ご健勝にて、日夜ご精神のことと拝察いたします。

県中学校長会長在任中は、副会長さん、理事さんはじめ、会員各位の格別のご支援ご協力により無事、重責を果し得まして、心から感謝申し上げる次第でございます。

昭和61年度は、(1)県立高校入試期日、合格発表日の問題、(2)中学校卒業生の増加に伴なう高校の募集定員増の問題、(3)教育改革、特に臨教審に対する中学校長会としての意見具申の問題、(4)いじめ、登校拒否などの生徒指導上の問題等々、緊急かつ深刻な問題が山積し、対応に忙がしい1年でありました。

いじめや登校拒否等生徒指導の問題については、マスコミの報道は以前より騒がしくなくなりましたが、各学校では、一刻の油断もなく、たいへんな努力を払っているのが現状かと思います。

高校入試関係では、県教委、私学当局のご配慮を得、結果として、まずまず納得できるところまで漕ぎつけることができ、同時に、中学校長会の主体性を堅持し得たように考えます。これも、会員各位のご支援ご鞭撻のおかげでございます。中学卒業生増は、今後二、三年は続きます。対応の苦労は絶えません。ご健闘を祈ります。

退職して、しみじみ思いますことは、現職の皆さんのご苦労であります。校長としての立場からの心身両面にわたる疲労は格別です。どうか、からだをいとおしんでください。からだを損ねると、学校経営の気概、気迫が衰えます。

全日中栃木大会も、いよいよ迫ってまいりました。準備も着々進んでおるものと存じます。ご苦労に感謝し、成功を期待しております。

おわりに、県中学校長会のますますの発展と校長先生方のご健闘を心からお祈り申し上げます。

新任校長のひとこと

新任校長としての願い

栃木市立皆川中学校長　江面　幸雄

新任校長としての出発にあたり、多くの先輩の先生よりお祝いの電話やお便りをいただき感激し、感謝の気持ちで一杯です。昭和29年に教職に就いてから4校に33年間勤務し、この間11人の校長先生のご指導をいただきました。「進んで事にあたれ」「徹せよ」「目惚れず評価を生かせ」「なりふりかまうな」「教育の評論家となるな」「節目を大切に」等ことばと指導姿勢から滲み出る先輩校長の姿が脳裏から離れず学校経営の支えとなっております。21世紀をめざした学校経営にあたり、国際社会に貢献できる広い心と美しい心をもった特色のある生徒の育成に努めたいと思っております。本校は12月には新校舎が完成しますが、図書館とオープンスペース、藤川の河川公演など施設、設備が地域の人の財産として、心の浄化と活性化に生かせるよう「3あい運動」の具体化に努力する決意です。

六然（りくぜん）

小山市立美田中学校長　星井田　享

中国・明時代末期の学者陸湘客の言と聞いています。自処超然（自分にとらわれず）・処人超然（人にはいつも和やかに）・有事斬然（事あれば活気に満ち）・無事超然（無事なれば心澄み）・得意澹然（得意のときはあっさりと）・失意泰然（失意のときも落ち着いて）が六然の大意でありましょう。

一日一日を大切にして、気負うことなく手抜きをすることなく、教師や生徒がそれぞれの個性を活しながら学び助け合い、学校全職員と生徒が共働して、充実した学校生活ができる学校にしたいと考えています。先輩諸先生方からのご指導やご助言をお願いするところです。

新任式に思う

足利市立坂西中学校長　阿久沢 立男

春休みで部活動に来ていた生徒たちの「おはようございます」の明るい挨拶や、隈々まで整備され、ゴミ一つないすばらしい学校に着任すると同時に、前任者の遺風を肌で感じ、身が引きしまる思いであった。

新任式での第一声は、挨拶がすばらしい清潔な学校ということで、まず生徒や、教職員の習慣化された日ごろの努力をたたえ、これからもぜひ続けて欲しい。また中学生としてよく考え、なにごとにも全力を傾注して頑張ろう。であった。

千余の生徒を前にして、この子らの幸せのために、微力であるが努力し、また良いことはどしどし賞揚して、本校のよき伝統を守り続けていかなければならない。という大きな責任を感じたしだいである。

今日も生徒は元気に活動している。感謝／

自校昇格雑感

葛生町立常盤中学校長　引間 利二

校長辞令を手にし、2か年間居なれた職員室から校長室に移った。何か落着かない。昨日までの席は新任教頭が着任し、着席している。

本日より本校経営の責任者となったのである。責任の重さと、孤独を感じる。昨日までの職員との係わりもあり、新鮮味の欠けるところもあるようで、これでよいのかと自問する。

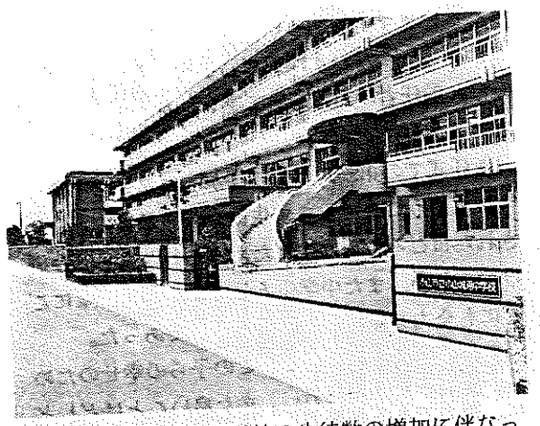
自校昇格はどうかと問われ、一長一短があると答えたこともある。だが、学校経営の上で、生徒、地域、職員の大半の実態がわかっている点では大変好都合である。

新任校長として（過去2か年の校舎改築、県、町教委指定の同和教育研究も終わり）、本年は、落着いた学校、整然とした学校づくりに職員、生徒一丸となってとりくんでいます。

62年度新設校紹介

小山市立小山城南中学校

校長　津　釜　和　夫



本校は小山第二中学校の生徒数の増加に伴なって、本年４月に小山市の１０番目の中学校として開校した。６１年７月１８日に工事に着工して、６２年４月３日に開校式を行った。用地費、校舎体育館、プール等の建築工事費及び備品費等を含む総工事費は約３７億円であった。本校の特色ある施設設備を簡単に紹介したい。

(1)　夏でも涼しい図書室

図書室は２階玄関の左側にあり、南側に広々としたテラスがあり、冷房設備があるので夏でも涼しく読書をするのに快適である。図書は約１千万円の予算で購入され、新しい本が書架いっぱいに並べられている。図書室専任の市職員が一人配置されているので図書の利用率は高い。

(2)　充実している難聴学級の施設設備

市内の難聴の中学生は全員本校に入学することになっている。現在生徒数は３名である。（２年２名、１年１名）　学習室、検査室、観察室、遊戯室があり、いずれもジュータンが敷かれており防音と冷防の設備がある。検査や学習のための機器も完備している。

(3)　ステンド・グラスの窓のある大食堂

１階の３００人収容の大食堂はホテルのロビーかとも思われる立派なつくりで、しゃれたステンド・グラスの窓があり、カラフルな食卓や椅子が並べられている。学年単位で交代で利用している。

(4)　便利な多目的ホール

３階北側の多目的ホールは、学年集会、学年ＰＴＡ、各部のミーテング、種々の研修、生徒の小グループの会合等に利用している。

(5)　照明器具が自動的に上下する屋内運動場

体育館は２階建で、１階は格技場と木工室、金工室になっている。２階が屋内運動場で天井が高く広々としている。照明器具はステージのボタン操作で電動で上下するので、故障した場合に修理が容意である。

(6)　防音と冷房設備のある音楽室

４階に音楽室が２教室ある。いずれも防音と冷房の設備がある。音響効果のよい教室で生徒達はレコードを聴き、楽器を演奏し、歌い、生き生きとして学習に励んでいる。

(7)　校庭のよく見える職員室

校庭は校舎の北側になっているが、２階の東端に職員室があり、校庭を全部見渡すことができるので生徒の管理上都合がよい。

本校は生徒数６１１名（普通学級１４、特殊学級２）、教職員２９名の中規模校である。

今、教職員と生徒が一体となって、「磨け知性、深めよ友情、鍛えよ体力」を合い言葉に新しい校風づくりに取り組んでいるところである。

生徒像	○自ら学び創造性に富む生徒 ○誠実で思いやりのある生徒 ○健康でたくましい生徒
学校像	○友情で結ばれた温かい学校 ○励まし合い喜び合う明るい学校 ○環境の整備された美しい学校
教師像	○自分に厳しく他人にやさしい教師 ○つねに生徒と共にある教師 ○明るくはつらつとした教師

地区だより

可能性の開発をめざして（塩谷地区）

1.　塩谷地区校長会の構成

塩谷地区校長会は、矢板市立中学校３校と塩谷郡４町（塩谷、氏家、高根沢、喜連川）の中学校７校の１市４町10校で構成されている。

2.　研修活動

研修活動は年７回実施しており、本年度は、主題を「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」と定め、サブテーマとして『可能性の開発をめざす中学校教育の推進』とした。

特に下記事項について研修を進める。

(1)　活性化を図る調査研究

(2)　可能性の開発をめざす教育課程の改善

(3)　「やる気」を起こす教科指導の充実

(4)　一人ひとりに充実感をもたせる生徒指導

3.　対策活動

地区内の中学校教育の振興を図るため、次の対策活動を進める。

(1)　教育諸条件の整備

(2)　教職員の勤務意欲の高揚

(3)　教育関係機関・諸団体との連携

(4)　教育振興懇談会の開催

4.　活動計画

４月　総会、運営組織編成、教育懇談会

５月　教科指導充実研究、進路指導対策

７月　中学校教育の諸問題について研究協議

９月　生徒指導の充実研究

　　中学校教育の諸問題について懇談

10月　県外教育事情調査（千葉県）

１月　教育課程の改善充実研究

２月　研修活動の反省と次年度の計画

5.　中教研との連携

年３回実施される中教研活動の学校経営部会に全校長が参加し、特色のある学校経営のあり方を研究している。

小人数のメリット（南那須地区）

総員８名（４町８中学校）というこじんまりとしたグループが、我が南那須地区の中学校長会である。

他地区と比べて、いかにも小人数でさびしい感じはするが、それだけに相互連絡や共通理解の深まりは迅速で、かつ徹底している。

改まって会議を設けなくても、別な名目の会合や中体連の大会など、全校長が出席の催しには、進行の合間に、あるいは終了後に、随時に協議が可能である。こうしたコミュニケーションのなかから、本地区中学校教育振興に関するいくつかの提案が生まれ、実施に移されている。

例えば、中教研の運営改善などもこの一つにあげられよう。

従来、各部会の長となっていた校長は少なく、研修活動でのリーダーシップ発揮もあまりなされなかった。このため、地区全体の行事運営との関連において、効率的な部会研修活動を進める場合や、渉外的な問題処理などには支障を生じたことが多かったので、これを改め、各部会長には、できるだけ校長または教頭が就任するようにして部会活動の活性化を図った。また、従来実質活動はせず名目的だったいくつかの部会も、今年度から実質的に活動するように改善を図った。

中教研以外にも、地区駅伝のロードレースの復活、優勝旗の更新など、中体連関係の事業の充実にもこのコミュニケーションが大きい貢献をしていることは事実である。いわゆる「根回し」が、小人数なるが故に徹底し、その結果、物事の決定が速く、確実に行われてきているのである。

研修面でも、例年５月東京で行われている「全日中大会」には全員が参加し、併せて都内または近辺の先進校を視察するなど、小人数の利点を生かした活動を続けている。今年度だけは、都合により10月の東京大会に変更して、全員参加の研修を予定している。

〔諸　連　絡〕

第39回全日本中学校長会栃木大会準備状況
（昭和63年10月19日～21日に開催）

本年の40周年記念東京大会につづいて、昭和63年度には宇都宮市内において「21世紀を拓く日本人を育成する中学校教育」をテーマとして、10月19日～21日の３日間に亘り全日中栃木大会が開催される運びになりました。先年度より、そのための準備を進めて参りましたが、本年度に入り、過ぐる６月４日(木)県中学校長理事研修会において本県としての準備委員会が正式に発足いたしました。それを機に、準備委員会事務局をはじめ、総務、会計、研究、庶務の各部において、分担業務の内容についての検討や実際の業務を推進すべく活動が開催されております。60年度の山形大会、61年度の山口大会等を参考にして着々準備を進めておるところであります。分科会場とテーマは次のとおりです。

第１分科会　「21世紀への展望に立った教育課程」
　文化会館小ホール
第２分科会　「一人ひとりの能力・適性等に応じる教育」　護国会館高砂殿
第３分科会　「豊かな心を育てる道徳教育」　宇都宮短期大学附属高等学校・須賀栄子記念講堂
第４分科会　「健全育成を目指す生徒指導」
　作新学院　聴蛙館
第５分科会　「個性の伸長を図る進路指導」
　宇都宮短期大学　須賀友正記念ホール
第６分科会　「地域社会に開かれた学校教育」
　栃木県青年会館大ホール
第７分科会　「活力に満ちた学校経営と条件整備」
　宇都宮市庁舎　大会議室
第８分科会　「教職員の資質向上と教員養成」
　栃木県立博物館　講堂

今のところ事務局ならびに４部には、宇河地区中学校長が所属し、準備推進の任に当っております。来年度の４月には、実行委員会を改組し、各地の中学校長にもこれにお入りいただき、本番に備えたいとの構想を持っております。

本大会を成功させるためには、県内中学校長の総力を結集させねばなりません。会員各位の益々の研究推進に積極的なご協力をお願いする次第です。　全日中栃木大会準備事務局長　斉藤　操

＜中学教育40年記念＞
第38回全日本中学校長会東京大会開催について

かねてご案内のように、来る昭和62年10月29日・30日に、東京・両国の国技館において、全日本中学校長会の、これまでの歩みをふりかえり21世紀に向けての展望に立った教育の在り方を求め、中学校教育40年記念式典及び記念研究大会が、下記の日程により、盛大に開催されます。

○第１日　28日(水)｛全日中常任理事会・運営委員会・全日中理事会等
○第２日　29日(木)
・「中学校教育40年記念式典」(10:00～10:45)
　全日本中学校長会長式辞に続いて、文部大臣挨拶、皇太子殿下のおことば（予定）、内閣総理大臣（予定）・衆議員議長（予定）・参議院議長（予定）・東京都知事（予定）からの祝辞や感謝状贈呈等があります。
・「郷土芸能」(11:10～11:35)
　東京都指定無形民俗文化財「八丈太鼓」
・「記念研究大会」(13:00～16:30)
　開会式、全体協議会（研究発表・宣言決議の提案等）
○第３日　30日(金)
・「記念研究大会」(9:00～10:10)
　全体協議会（文部省説明・宣言決議等）
・「記念講演」(10:20～11:30)
　講師　東京大学名誉教授　臨時教育審議会会長　岡本道雄先生
　演題　今次教育改革の背景
・「閉会式」　(11:45～11:55)

全日中東京大会事務局の集計によると、参加者数は3,818人で、都道府県別では、東京（653人）、大阪（245人）、埼玉（148人）、神奈川（144人）に次いで、栃木（129人）の順になっており、来年10月20日・21日に予定されている、第39回全日本中学校長会栃木大会に対しての関心の深まりが強く感じられます。